

Comparison of dopamine and norepinephrine in the treatment of shock.

De Backer D, Biston P, Devriendt J, Madl C, Chochrad D, Aldecoa C, Brasseur A, Defrance P, Gottignies P, Vincent JL; SOAP II Investigators.

N Engl J Med. 2015 May 7;372(19):1812-22.

心原性ショックに対する薬物治療について、ガイドラインでは初期投与薬としては Dopamine がすすめられている。Norepinephrine については、敗血症性ショックではすすめられているが、心原性ショックについては他の強心薬で効果がない場合の併用薬としてすすめられている。この試験では、ショックの治療としてどちらが有用であるかを、無作為化試験を行って比較している。

1679 例のショック症例を（循環血液量減少性ショック、心原性ショック、敗血症性ショックを含む）が、dopamine 群 858、norepinephrine 群 821 に割り付けられた。Dopamine または norepinephrine で血圧が維持できない場合は open-label での norepinephrine、epinephrine、vasopressin が投与された。

心拍数は投与開始から 36 時間までは dopamine 群で有意に高かった。一次エンドポイントである 28 日以内の死亡については有意差がみられなかった(52.5% in the dopamine group and 48.5% in the norepinephrine group; odds ratio with dopamine, 1.17; 95% CI, 0.97 to 1.42; P=0.10).有害事象としては、不整脈が dopamine 群が多かった(207 events [24.1%] vs. 102 events [12.4%], P<0.001) ショックのタイプ別解析では、心原性ショックで 28 日以内の死亡に有意差がみられた(P=0.03) 現在は血圧低下症例に対し、dopamine を第一選択とすることが多いが、今後は変わる可能性がある